

山本 秀明 “原点回帰”

2023年3月17日(金)-4月1日(土) 日・月・火休廊
時間: 12:00-19:00 ※最終日は17:00まで

*レセプションパーティーはございません。
*急遽展示日程や時間の変更等がある場合がございます。
ホームページやSNSをご確認の上、
ご来廊下さいますようお願い申し上げます。



“集積”
松、松脂、蜜蝋、カシュー
90×90×4cm
2023

s+arts (スプラスアーツ) より、山本秀明 個展「原点回帰」の開催をご案内申し上げます。

「自分自身の地層を作る。」と語る山本秀明は、豊かな自然の中で木と対峙しながら作品を制作している作家です。独自の手法により形成される作品は、観る者が吸い込まれるようなその存在感で多くの人々を魅了し、これまでに約15カ国の個人や企業に作品が渡る実績を持ち、国内外で高い評価を得ています。

幼少期から地層に興味を持ち、縄文土器、化石等の発掘や、断層のつき方をずっと眺めては過去の物や事に思いを馳せる時を過ごしてきた山本は、木を素材として作品創りを始めた時、その頃の感覚が原点となって影響し、形となって現れてきたと言います。歴史や時間、生命感を強く感じたことから、角材を積み重ね、質感を出すために丹念に削ることで地層を連想させ、降り積もる時間の経過を表現しているのです。

自身の軸となるスタイルを保ちながらも、人の生き方の柔軟性や軽やかさを受け入れながら、長年作品制作を続けてきた山本は、今回改めて「今やっている作品創りのもとは何だったのか？」という思いが突然湧いてきて、その時に立ち返ってみたと話します。それが、35年程前に自然の中で、彼1人で現在のアトリエでもある山小屋（ログハウス）作りを始めた時でした。本展「原点回帰」では、元々は油絵を中心としていた山本が、木を素材とした彫刻制作にシフトした時の心境を軸として制作に取り組んだ作品群を発表いたします。

無垢の木塊を彫り削るのではなく、松の角材を接着して積み重ね面を作り、ユニットにしたラフな形の表面をチェーンソーや丸鋸で削り出していくという、山本作品の特異性は保ちつつも、長年培ってきた幾多の技術と研ぎ澄まされた感覚が合わさり、異なる印象を持った新しい形や色彩が多く見受けられるようです。一見「原点回帰」と呼ぶには疑問を抱くようにも思える新作群ですが、観る者に想いを伝える事を意識したこれまでの作品とは異なり、自分に素直で自然と一体化する感覚と自由に制作に取り組むことを意識した作品群だと言えるでしょう。

単に自身の作品創りの出発点を辿るのではなく、その時の心境と現在の技術や感覚が交わることで作り出された山本らしい本展となりました。これを機に、荒々しさと繊細さが混じり合い大変美しい存在感を纏った山本秀明の新作群を是非ご高覧ください。

山本 秀明 Hideaki Yamamoto

1950 北海道松前生まれ
1975 横浜国立大学美術科卒業

**個展(抜粋)**

2023 「原点回帰」 s+arts (東京)
2022 「Emotion」 s+arts (東京)
2021 「幸福と輪廻」 s+arts (東京)
2020 「Eternity」 s+arts (東京)
2019 s+arts (東京)
2016 ART STAGE Singapore(シンガポール)
2015 ART STAGE Singapore(シンガポール)
2015 '14 '12'10'09 '08 Shonandai MY Gallery(東京)
2009 '06 Gallery Amano (山梨)
2009 '06 ギャラリー舩 (東京)
2006 かわさきIBM市民文化ギャラリー (神奈川)
2005 ギャラリーヒラワタ (神奈川)
2000 ギャラリー大黒屋 黒磯(栃木)
1996 '97 '98 '99 '02 '03 '07 かねこ・あーとギャラリー (東京)
1997 '01 '03 '04 '05 '07 '08 スペース行樹 (神奈川)

グループ展(抜粋)

2019 Bistro J_O (東京)
2018 ap.pr 2018 Shonandai Gallery (東京)
2017 '15 '14 '12 '10 '09 '08 Shonandai MY Gallery(東京)
2009 '06 Gallery Amano (山梨)
2009 '06 ギャラリー舩 (東京)
2006 かわさきIBM市民文化ギャラリー (神奈川)
2006~05 SHIBUSE (上海、中国)
2005 ギャラリーヒラワタ (神奈川)
2004 第8回KAJIMA彫刻コンクール (東京、大阪)
2003 現代日本彫刻展 (山口)
2000 ギャラリー大黒屋 黒磯(栃木)
倉敷まちかどの彫刻展 (岡山)
現代日本美術展 (東京)
1999 '97 すどう美術館 (東京)

パブリックコレクション

INAKAYA SKY DINING LTD(香港)
塚崎整形クリニック(長崎)
公立阿伎留病院(東京)
叙々苑(東京)
上海文化基金会(上海、中国)

アートフェア

2022 Affordable Art Fair Singapore (シンガポール)
アート大阪 (大阪)
2019 Affordable Art Fair Hong Kong(香港)
アートフェア東京 (東京)
2018 Affordable Art Fair Brussels(ブリュッセル)
Affordable Art Fair Hong Kong(香港)
2017 Affordable Art Fair Brussels(ブリュッセル)
Affordable Art Fair Singapore Spring (シンガポール)
Affordable Art Fair Hong Kong(香港)
Art Expo Malaysia Plus 2017(マレーシア)
Affordable Art Fair Singapore Autumn(シンガポール)
Art Kaohsiung(台湾、高雄)
2016 Art Stage Singapore(シンガポール)
Affordable Art Fair Singapore(シンガポール)
Art Stage Jakarta(ジャカルタ)
Affordable Art Fair NYC(ニューヨーク)
Art Kaohsiung(台湾、高雄)
2015 Art Stage Singapore(シンガポール)
Affordable Art Fair Singapore(シンガポール)
YIA Art Fair(パリ)
ART MONACO(モナコ)
Art Kaohsiung(台湾、高雄)
2014 Off Art Fair(ブリュッセル)
Asia Contemporary Art Show(香港)
Art Taipei (台湾、台北)
Art Kaohsiung(台湾、高雄)
2013 Off Art Fair (ブリュッセル)
Art Kaohsiung(台湾、高雄)
Art Taipei (台湾、台北)
2012 New City Art Fair(ニューヨーク)
Hong Kong Contemporary(香港)
2011 India Art Summit(インド)
KIAF(韓国)
2010 kunStart(イタリア)
Art Singapore(シンガポール)
2009 kunStart (イタリア)
India Art Summit (インド)
2008 Art Taipei (台北)
Art Singapore (シンガポール)
2005, '06, '07 KIAF(韓国)

アーティストステートメント

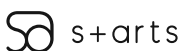
「それは山小屋作りから始まった」

近年、いろいろな事、物に興味を持ち、素直な気持ちで意識的に影響された事を、作品創りに直接的に使ってきた。時には他者を巻き込み、自分が過去に使ったことのない素材だったり、道具だったり、いろいろな面を拡大したことは、自分を揺さぶるためだった。

今よりかなり若い時期には、こうであるべき、こうでなければという、狭小な言動が多かったが、それではいけないという考えに至り、それを全て（又は多くを）否定した状態を、短くない期間にわたり自分に仕向け、作品創りを続けてきたが、ある時、山梨の自分で建てたアトリエで1人考えていた時、今やっている作品創りのもとは何だったのか？という思いが突然湧いてきて、その時に立ち返ってみた。そうすると全ては自然の中で山小屋（ログハウス）作りをしてみたい。それも自分1人の力でやってみたいという強い意志が働いた時だったと思いだした。その時は油絵の作家で、まだ木で作品創りをしようとは考えず、汗を流して、ひたすら体力の限界まで身体を酷使して、頭を真っ白にして取り組んだ。身体が動かなくなったら、野原に大の字になって寝た。その時、自然と一体感になった事を思い出した。もう35年も前の事だが、その時の瞬間は今も鮮明に身体全体で感じられる。そんな状態で1週間も動いていると、筋肉痛等でボロボロになっていても、身体は動くようになってきていた。1人でそのような生活をしていると、以前とは違う思考回路ができてきたような感じで、考え方、考える視点がかなり変化してきた。

長期滞在と短期滞在を1年近く続け、最初の一棟目が形になってきた。そのような中で木での物作りを始め、その中で、削り跡や工具の使い方で美しさを作り出せることに気付き、これが後の作品創りに結びついていった。その後20年ほどで増築を繰り返して、徐々に山小屋も増えていき、今では四棟目となった山小屋のベランダが作業場になっているが、木の素材で作品創りを始めたその時の作品に対する気持ちは、山小屋作りと同じように自分に素直で、自然と一体になった感覚と同じだった。そんな感覚で、再度作品を創ろうという気持ちが今回のタイトル「原点回帰」になりました。

2023.2 山本秀明



〒106-0032

東京都港区六本木 7-6-5

六本木栄ビル 3F

TEL&FAX 03-3403-0103

MAIL info@splusarts.com

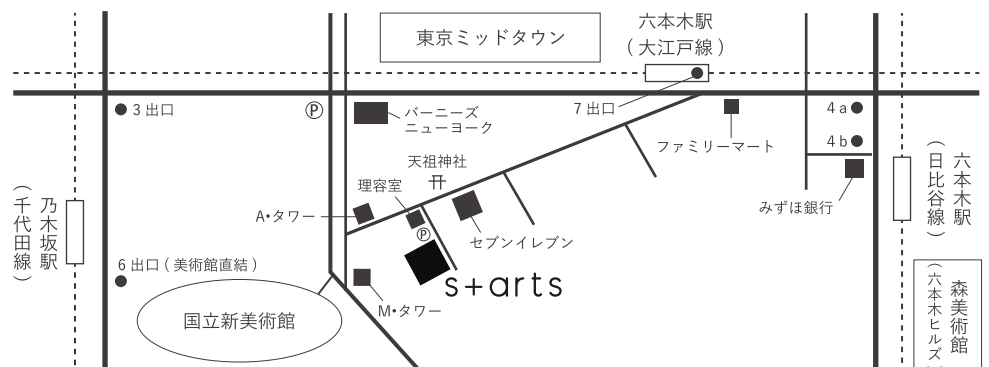
WEB www.splusarts.com

f www.facebook.com/splusarts

@ www.instagram.com/splusarts

t www.twitter.com/splusarts

A www.artsy.net/s-plus-arts



東京メトロ 日比谷線 六本木駅 / 千代田線 乃木坂駅: 徒歩約5分 都営大江戸線 六本木駅: 徒歩約3分